

能登半島職員派遣体験記

安全防災担当室 鈴木玲温（すずきれん）

令和6年1月19日(金)から1月26日(金)まで「石川県志賀町への職員派遣(第3陣)」に参加しました。

場所は、石川県志賀町役場富来支所で、震度7を唯一観測した自治体です。支援の内容は、給水やブルーシートの配布などでした。

派遣期間(1週間)の流れは、1月19日に移動し、その日の20時から打合せ(30分程度)を実施しました。

20日から25日は、まる一日支援活動を実施しました。

毎日のルーティンは、午前6時～20時頃まで(移動を含む)です。

最終日の26日も支援作業を実施し、終了した班から逐次、神奈川県へ帰りました。

主な活動内容は次のとおりです。

- ・志賀町役場富来支所の入口にある給水機3機からの給水の補助。
- ・住民の行列支援。
- ・必要に応じて、住民の車までポリタンク等の搬入支援。
- ・給水機への補充は、各市町村の上下水道局が行う。
- ・ブルーシートと土のう袋を、住民へ配布。
- ・各種支援物品の在庫管理。



全般の所見です。

第3陣の災害派遣職員として志賀町役場富来支所まで行きましたが、未だに断水しており、家が崩壊し避難所生活をしている方が数多くいました。

避難者の方は高齢の方が多く子供や若い世代の避難者はほとんどいません。この状況から、地域によって世代別や性別ごとに災害時必要な物品の備蓄が必要だと思いました。



長期にわたる断水が続いてしまうと耐震性貯水槽や備蓄している水のみでは不足するため、給水車や給水タンクの準備や支援が必要になってくると思います。

ブルーシートの配布では、屋根に覆うための大きいものや生地が厚いもの(#3000)の準備が必要です。生地が薄いとすぐに破けて使えなくなる原因になります。※業者はブルーシートを張るだけで12万円の費用を徴収していました。

この災害派遣を終え、松田町に災害を置き換えたとき、何が必要かをイメージすることができました。今後、そのイメージを具体化して購入や予算に反映していきたいと思います。

最後に印象的だったのは、被災者が高齢にもかかわらず、元気に活動しており、逆に自治体の職員や我々支援職員が元気をもらうほどでした。

この元気さがあれば、復旧・復興も近い将来必ず達成できると思います。

おわり

【最後に庁内での質疑集を参考までに】

Q 給水はどうしていたか？

A 被災者の方が車で、ポリタンクや給水袋を持って
くるため、持ってきたものに給水していた。給水袋が
必要な方には配布をした。



Q 衛生管理や健康管理はどうだったか？

A 職員がトイレや施設内を定期的に掃除。食事の場
所を統一。土足禁止エリアの確保等を行っていた。健
康管理は分からないが、血圧計は置いてあった。

Q 学校教育はどうだったか？

A 学校教育が始まったかは分からないが、小中学校が避難所指定から解除さ
れていた。

Q 介護が必要な高齢者等はどうしていたか？

A わからないが、富来支所には介護が必要な方はいなかった。

Q 道路状況はどうだったか？

A 第3陣ということもあり、道路は舗装され通行することができたが、段差
はまだ大きかった。また、土砂で道路が埋められてしまっているところは、片
道車線は通行できるようにされていた。

以上